

Lo-bee

市民活動情報誌“ロビー”

ロビーは、あなたがまだ見ぬ、ヒト・コト・モノとの新たな関係を創ります。

2024.10 第6号



表紙 上原区の皆さん

1・2ページ 自治探訪

笑顔いっぱいの皆さん。平日昼間、集会所での防災説明会
の一幕です。防災会の大庭境時^{けいじ}さんが用意した大雨時の区内
の写真（右上）を見て、対応を話し合います。集会所の利用
から生まれるものは…。

3ページ 団体探訪……裾野市東地区おやじの会

4ページ 企業探訪……株式会社 金ペン堂

5ページ ぼくらの活動ノート……富岡中学校ダンス同好会
読者プレゼント

6ページ 裾野市市民活動センターへようこそ

裏表紙 各区の人口情報など

上原区

深良支所の周辺に位置し、約 160 世帯が居住。地域に複数の神社や弘法大師があり、近隣区と協力し、祭りを催している。

平成 24 年度に各区の取り組みとしてウグイスカード（緊急医療情報カード）を導入した際は、区民説明会を重ね、区民の 98.4%（市内平均 35.2%）に配付を行った。



納涼祭は、多くの区民の力で催されます

幾重にも重なる交流の機会、区民の集まりが自治の原動力

強いつながりは常会から

5つの組から構成される上原区。同区では、各組が月に1回、都合のよい日を設定し、集会所で“常会”と呼ばれる組内の^{くみうち}世帯が集まる会議を行っています。常会では、あらかじめ区長から各組長に伝えられた連絡事項が共有されるほか、区民からの意見や困りごととも話し合われるそうです。

「常会で出された困りごとは、組で解決できれば組で、出来なければ区でという順番になっている」と話す渡邊文教区長。

区民同士が顔を合わせる機会となる同区の常会は、暮らしの困りごとを協力して解決する場にもなっているようです。

近年では、集会所まで足を運べない高齢者や共働きで時間が取れない世帯が多い組もあり、LINE を活用したり、常会までにあらかじめ資料を配布したりと、状況の変化に合わせ、形を変えながら区民とのコミュニケーションを図っています。

渡邊区長は「近所で自由にものが言えるのは、お互いの気遣いにもつながる大切なこと」と常会の意義を語ります。

開かれた場所が生み出すもの

上原区集会所は、老朽化した建物を建替えようという区民の念願が叶い、平成 29 年度に自治活動の拠点として完成しました。ところが、コロナ禍で集会所の利用がしばらくの間、区民の交流が減りました。

そんな事態を打開しようと、令和4年度区長の大庭^{はるよし}春好さんは、区長就任直後の4月から毎月第3土曜日に、感染対策を施しながら集会所を開放。区民に自由な利用を呼び掛けました。

大庭さんは「はじめは誰も来



熱が入る仲間内のマージャン



端切れでの巾着作り（区長さんはキーケースに愛用）

なかったから、建替え前の荷物の片付けや古くなった飲料を捨てていたよ」と笑い飛ばします。

開放から数か月は利用が進まなかった集会所の開放ですが、区民の希望に応じて七夕飾りを飾ったり、子ども会行事と連携したりすると、次第に様子を見に来る人やマージャン・将棋を希望する人が現れました。その後も、こんにゃく作りやそばうち、他区から指導者を招いたしめ縄作りなど、少しずつ集会所の利用は進みました。

現在では、個人に加え、定例活動として“シルバー会”が月に2回、女性を主体とする“ひだまりの会”が2か月に1回、親睦会や手芸などで利用しています。

9月には、ひだまりの会の会員から区に寄せられた声をきっかけにした防災説明会が開かれました。声の内容は、高齢者が多かった同区で日中に何かあったら自分たちが力にならなければいけないから防災につい

て知りたいとのこと。区民の集まりが、自治の原動力になっているようです。

大庭さんは「昔は集会所で葬式をしていたからね。区民であれば理由なく使えるのが集会所。もっと利用してほしい」と区民同士のさらなる活発な交流を望んでいます。

子どもの思い出をつくりたい

8月10日、集会所で5年振りの納涼祭が行われました。

「久し振りで実施を躊躇する声もありましたが、やると決めて実施しました」と渡邊区長。

せっかくなら子どもの思い出になることをしたいと、組長を中心とする区役員と協力し、焼きそばやフランクフルトなどの飲食物、紙芝居やバンド演奏などの催しを準備しました。また、渡邊区長自身も新企画を考案。子どもたちに将来の夢を紙に書いてもらい、区長からのメッセージを添え、シールとともにプレゼントしました。

当日は、100名程の人出があり、子どもの笑顔や区民の家族が市外から帰省して久しぶりの交流を楽しむ姿が見られました。

渡邊区長は納涼祭を振り返り、「始めてみると若い組長さんたちが気持ちよく応えてくれた。若い世代を頼りにして任せたら、本当によく動いてくれて頼りになった。納涼祭を通して大切なことが伝わっているのではないか」と感謝と手応えを口にしました。

子どもの思い出作りは他にも。区は、10年程前から区内に流れる古川ふるかわを利用し、毎年6月にアマゴの放流体験を実施しています。放流場所の河川敷は、区民有志が草刈りをして、普段は子どもたちの遊び場としても利用されています。

「子どもの頃の人との交流は大事。交流の記憶が子どもたちの将来につながるから機会を提供したい」と区として子どもに関わる思いを渡邊区長は語りました。



納涼祭でのバンド演奏



子どもたちに貴重な体験を提供するアマゴの放流

裾野市東地区おやじの会

平成 10 年発足。東小学校 PTA の傘下で活動をスタート。現在は社会教育を担う地域づくり団体として活動中。会員は保護者や地域住民など。受賞歴は、平成 30 年度あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞。第 8 回ふるさと貢献賞。平成 30 年度裾野市東地区区長会表彰。令和 5 年度ふじさんっこ応援大賞の大賞など多数。



ここに来ればみんな仲間！

顔を合わせる日常の関係づくりが地域づくりの土台をつくる

言い出しっぺ実行委員長方式

やりたいことを形にする！言い出した人が実行委員長となりみんなに呼び掛け、実現させる。実現に向けて邪魔をしないのが東地区おやじの会の流儀です。年間 30 以上の事業を進めているというのには驚きです。裾野を代表する地域づくり団体として活動の幅を広げています。

月 1 回の“何にもしない合宿”

代表的な事業はお泊り会の“何にもしない合宿”です。地域をつなぐツールとして平成 24 年 9 月にスタートし、今年 10 月で 89 回を迎えました。東小体

育館で月 1 回、東地区の小・中学生、高校生から大人まで、毎回 100 人規模の地域住民らが顔を合わせています。ボール遊びをしたり、鬼ごっこをしたり、9 時の消灯時間まで、過ごし方は全て自由。とにかく、子どもも大人も楽しそうです。

言い出しっぺは、現会長の小田圭介さん。「小学生の時に地元が楽しいという体験をして、地域と関わり続けたいという中学生を生み出し、地域を担う人づくりを目標として始めた。イメージしていた将来像の光景が広がっている」と語ります。

会のメンバーとして参加する柴田輝伸さん（24）は第 1 回

の参加者で約 3 年前に消防東分団に入団しました。「地元を住みやすく、よりよくするためのこの活動に関わり続けたい」と話します。同じく増島莉久さん（21）も第 1 回の参加者。当時、参加できるのは小学生までだったそうですが、その後も参加し続けたいという増島さんの思いが中学生の参加を認めるきっかけになりました。増島さんは「地元が好き。当時わくわくしていたこの空気感はあるところと変わらない」と笑顔を見せます。

同会は、自分たちと地域にとってのよりよいが重なる領域で活動する団体として、地域づくりの可能性を迫ります。



自分たちで過ごし方を考えて、思い思いに楽しむ子どもたち

裾野発 “何にもしない合宿”

毎月 1 回、土曜日に東小学校体育館（東地区コミュニティセンター）で開催。各家庭で夕食と入浴を済ませて 18：30 以降にそれぞれのタイミングで集合。21：00 消灯。翌朝 7：30 までに解散（帰宅）。問合せ先：090-1733-1382（小田圭介）

* 裾野市内では、学校単位や子ども会、自治会など 5 か所で実施。全国 30 か所以上に広がりを見せている。

株式会社 金ペン堂

昭和10年4月創業。三代目の勝又社長は、先代から受け継ぎ、21年目。裾野市内で老舗文房具専門店として地域に根付いている。事業内容は、文房具、事務用品などの販売。OA機器などの保守サービスやパソコン修理・パワーアップ全般など。ほか、カルチャー教室（裾野学苑）の運営。



専門店ならではの品揃えと豊富な知識を持つスタッフの皆さん

地域に根ざし、親しまれ続ける“まちの老舗文房具専門店”のこだわり

専門店ならではの強み

来年4月で創業90周年を迎える文房具専門店「金ペン堂」は、万年筆を1本1本手作りし、販売する店として開業しました。初代が東京の万年筆専門店「神田金ペン堂」で腕を磨き、妻の実家がある裾野でのれん分けし、店を構えました。戦後、文房具店として地域に根ざし、高品質な品を豊富に揃え、子どもからお年寄りまでみんなが頼れる「まちの文房具屋さん」として親しまれています。

昨今、文房具は専門店以外でも手軽に入手できる時代ですが、スタッフの皆さんは「お客

様と対面で商品の魅力や商品価値、使い方などを伝えられるのが強み。昔から変わらずユーザー目線を大事にし、かゆい所に手が届くようなサービスを心掛けています」と口を揃えます。

金ペン堂ならではのサービス

同店では、買い物をした際、購入金額に応じて“サービス券（金券）”や学生を応援する独自の“学生会員カード”を提供しています。丁寧な接客と合わせ、紙媒体で手渡す昔ながらのやり方は、お客様とのコミュニケーションを大切にする勝又社長の譲れないこだわりです。

会話を交わした先には数々の

感動秘話があるそうです。サービス券を集めて孫にプレゼントしたいという常連さんとの会話。学生会員カードを長く愛用していた大学生は、卒業して社会人になることを報告に訪れ、「お世話になりました」とカードを返却されたそうです。

現在はSNSも駆使して商品をPRし、公式LINEでは“毎月第3金曜日は金ペン堂の日”と銘打ち、クーポンも配信しています。はずれくじなしの“文房具ガチャ”も大人気。古き良きを残し、時代に合わせて新しい展開を見せる金ペン堂は、これからも地域に根ざした文房具専門店として走り続けます。



社長の一押し商品とこだわりのサービス券

文房具専門店“金ペン堂”

ところ：裾野市平松 442-2

電話：055-992-0241

平日：10:00～19:00

土・祝日：10:00～18:00

定休日：水・日曜日

LINE 公式アカウント



X アカウント



Instagram アカウ



金ペン堂メルカリシ



ぼくらの活動ノート

富岡中学校ダンス同好会 YSJ ^{ヒラソール} girasol

加藤^{ゆのん}優雅音さん（3年）・林^{じゅえり}珠愛莉さん（2年）・大森沙和子^{ゆうみ}さん（2年）勝又^{もろずみいろは}優心さん（1年）・星野水希さん（1年）・両角^{りやうかく}彩色^{いろは}さん（1年）・勝間田杏菜さん（1年）



富岡中学校“初”のダンス同好会誕生！

これまで同校にはダンス部はありませんでしたが、令和4年度に入学した加藤さん（現3年）の熱い思いでダンス同好会が誕生しました。加藤さんは入学式の翌日から何度も校長先生を訪ね、「ダンス部をつくりたい」と直談判。職員会議で先生方の同意を得て、同校初のダンス同好会を発足させました。

加藤さんは日々の練習に励み、地域のイベントでダンスを披露するチャンスを得ました。加藤さんが踊る姿を小学生の時に見たという大森さん（現2年）は「中学生になったら必ず同好会に入る」と心に決めたそうです。入学後、大森さんと同級生の林さんが加わり、大会出場を目指して練習を重ねる3人。昨年度初めて、念願の大会出場を果たしました。

今年度は1年生4人を迎え7人になり、9月に開催された同校の^{せいりようさい}青嶺祭（文化の部）では迫力のあるヒップホップダンスを披露しま

した。生徒も先生も最初からハイテンションで、「最高！」「ブラボー！」の大声援。総立ちで「アンコール」の掛け声は鳴りやみませんでした。最高のパフォーマンスを見せた7人です。

同好会を立ち上げた



加藤さんは「できなかった振付けやステップができるようになるのが楽しい」とダンスの魅力を語ります。ダンスは生きがいという大森さんは「みんなで踊るのが楽しい。みんなで話し合いながらお互いを高め合えるところがいい」と話します。林さんは「めっちゃ楽しい。ダンスがないと生きていけない。ダンスは唯一自分を表現できるアイテム」と目を輝かせます。

今後の出演予定

11月16日（土） 富士山すその花火まつり

11月24日（日） 富岡地区コミュニティ祭り

Local bee の巣

裾野市市民活動センターへようこそ



市民活動センターは、区や市民活動団体の運営・活動の企画、企業の CSR 活動のほか、ボランティアや補助金・助成金の情報など、幅広い相談に対応します。皆さんがちょっと踏み出す気持ちに寄り添い、活動を支えます。

市民活動センターのつばやき

区の公民館って一体なんだ

今回のテーマは、皆さんの区にもある公民館。身近に感じる人もそうでない人もいるのではないのでしょうか。公民館は区の会議や団体が活動するだけの場所だと思われがちですが、その定義や成り立ちを知ると、本来の公民館の姿が見えて、実に面白いのです。

各区にある公民館ですが、法律に定義される「公民館」は、市内では鈴木図書館にある東西公民館のみであり、区の公民館と東西公民館とは、設置者や運営方法などが異なります。そのため、区の公民館は、法律上「公民館に似た施設」とされています。

わざわざ似た施設とする理由は公民館の生い立ちと関係しています。公民館の歴史は古く、既に明治時代には公民館らしき施設が

あったと言われています。明文化されたのは、昭和21年に当時の官僚である寺中作雄氏が戦後の復興に公民館の必要性を構想したことによりです。

構想では公民館の機能として「親睦を深める」「村おこし」「民主主義の練習」「青年の養成」などが挙げられています。理解するに、地域の人が話し合い多数決で物事を決め、互いの関係をより良くする中で、まちづくり・人づくりをしようという考えで、現代にもあてはまります。しかもこの考えは、公民館という施設がなくても成立し、実際、世間には施設がない公民館や私設公民館も存在しています。

つまり、区の公民館は、施設そのものではなく、同じ地域に住む人同士がどれだけ思いを通わせられているかが大事なのです。あなたも理由なく区の公民館を利用して、おしゃべりを楽しんでみては。

施設案内

～自治活動・市民活動・企業の CSR など～

ところ 裾野市深良 435 (生涯学習センター1階)

電話 055-992-6100

職員対応日 火曜日～金曜日 9時～17時

(祝日・年末年始等を除く) (不在の場合あり)

施設利用 8時30分～21時30分

(生涯学習センター休館日を除く)

詳しくは、市公式ウェブサイトを

ご確認ください



ウェブサイト市民
活動センター
試
市公

\ Lo-bee 読者プレゼント /

PRESENT

ロビーをお読みいただきありがとうございます。
読者の中から、抽選で素敵なプレゼントが当たります。右下の応募フォームからご応募ください。
当選者には、市民活動センターからご連絡します。

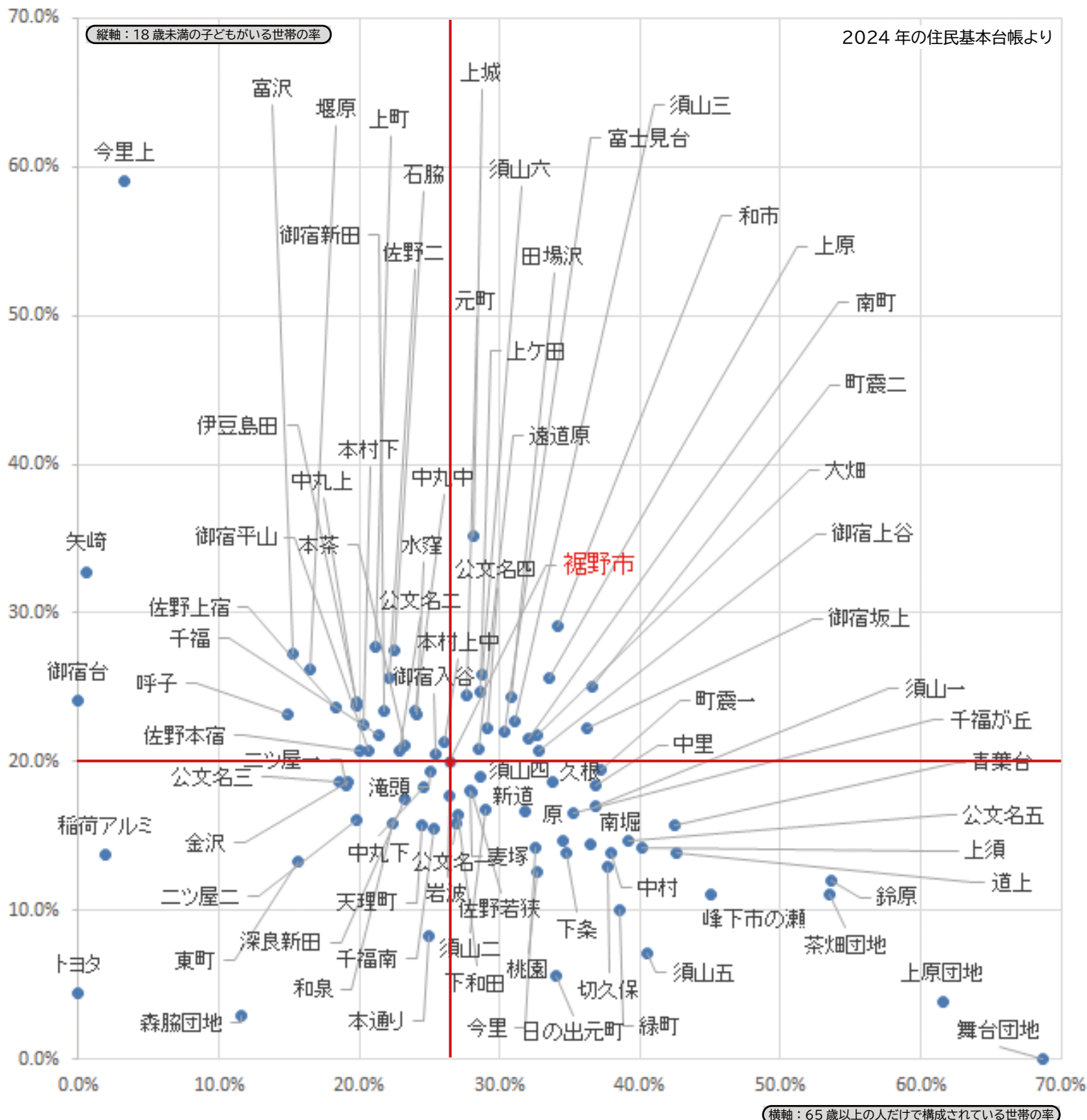
金ペン堂
オリジナルエコバッグと
文房具のお楽しみセット
5名



応募フォーム



図でみる私の地域 ～進めよう！役・事業・取り組みの見直し～



図の見方

この図は、縦軸を18歳未満の子どもがいる世帯の率（子育て中の世帯率）、横軸を65歳以上の人だけで構成されている世帯の率（高齢者のみの世帯率）とし、市内全区をプロットした図です。赤い線が交差しているところが裾野市の平均です。つまり、裾野市全体では、約5軒に1軒が子育て中の世帯、約4軒に1軒が高齢者のみの世帯ということになります。裾野市といっても、各区で違いがあるのが分かります。

例えば、図の左上に位置する区は、子育て世帯の割合が高く、高齢者のみの世帯の割合が低いということです。子どもや子育ての支援を優先したいという区となります。右下であれば、逆の考え方をします。

世は少子高齢社会ですから、多くの区は年を追うごとに右下に動いていくはずですが、この図から読み取りたいのは区によって力を入れるべき課題が異なるということです。さて、皆さんがお住まいの区はどこに位置し、どんな取り組みをしていますか。自治振興課では、地域づくりの学習会などの相談にも応じられますので、ご連絡ください。（自治振興課 電話995-1874）